

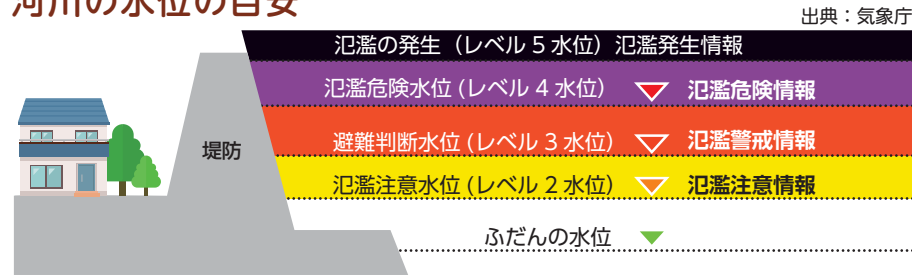
風水害から身を守りましょう

日本は梅雨前線や秋雨前線の活動、台風の影響などにより、全国各地で大雨が発生します。また、日本は全人口の約50%が洪水氾濫地域に住んでいます。風水害から大切な家族と財産を守るために、日ごろからしっかり対策を立てて、風水害から身を守りましょう。

河川の氾濫

大雨などで河川の水が堤防からあふれたり、堤防が決壊して氾濫（外水氾濫）が発生します。内水氾濫に比べ甚大な被害が広域に及び危険があり、河川の水位に応じて国管理河川は気象庁と国土交通省が、都道府県管理河川は気象庁と都道府県が洪水予報を発表しています。

河川の水位の目安



洪水予測の種類と住民のとりべき行動～大分川と大野川が対象

情報	とるべき行動	警戒レベル
氾濫発生情報	災害がすでに発生していることを示す警戒レベル5に相当します。災害がすでに発生している状況となっています。命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保してください。 (緊急速報メールで発信)	警戒レベル5相当
氾濫危険情報	危険な場所からの避難が必要とされる警戒レベル4に相当します。災害が想定されている区域等では、自治体からの避難指示の発令に留意するとともに、避難指示が発令されていなくても自ら避難の判断をしてください。 (緊急速報メールで発信)	警戒レベル4相当
氾濫警戒情報	高齢者等は危険な場所からの避難が必要とされる警戒レベル3に相当します。災害が想定されている区域等では、自治体からの高齢者等避難の発令に留意するとともに、高齢者等以外の方も避難の準備や自ら避難の判断をください。	警戒レベル3相当
氾濫注意情報	避難行動の確認が必要とされる警戒レベル2に相当します。ハザードマップ等により、災害が想定されている区域や避難先、避難経路を確認してください。	警戒レベル2相当

台風や大雨の際には～避難するときのポイント

避難は早めに

なるべく周囲が浸水する前に地域で声をかけ合って避難する。特に夜間に大雨が予想されるときは、夕方までに避難を。



動きやすい服装で

荷物は最小限にして背負い、両手が使えるようにする。長靴は水が入って動きにくくなるので、運動靴で避難する。



長い棒を利用する

長い棒などを杖のかわりにし、浸水して見えなくなっている道路の側溝やマンホール、くぼみや障害物などに注意する。



車で避難しない

車は浸水でエンジンが止まったり水没する危険がある。やむを得ない場合を除き、徒歩で避難する。



河川などに近づかない

増水した河川など危険箇所の様子を見に行かない。



無理をしない

歩行可能な浸水深の目安は約50cm。流れがある場合はそれ以下でも危険。避難が遅れたら高い場所で助けを待つ。
※20cmでも子どもは危険



内水氾濫

都市部や住宅地などに短時間で局地的な大雨が降ると、下水道や排水路があふれ出して道路や建物などの浸水を引き起こすことがあり、これを「内水氾濫」と言います。

なお、内水氾濫には、短時間の豪雨など下水道や排水路の処理能力を超える雨が降り、雨水が地表にあふれることで起きるものと、豪雨によって河川の水位が上がり、河川の支流や下水道の雨水を河川に排水できなくなって起きるものがあります。



内水氾濫時の要注意ポイント

地下空間から早めに避難

- 地上の様子が分からず逃げ遅れる危険がある。
- 地上が冠水すると一気に水が流れ込み、流れ落ちる水で階段は上れない。
- 20cm浸水すると、流れ込む水圧で部屋のドアは開かなくなる。

アンダーパスは通らない

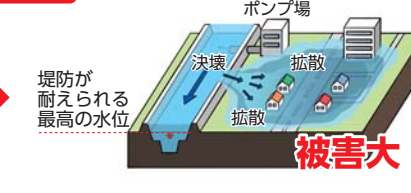
- 鉄道や道路の下をくぐる場所（アンダーパス）は水がたまりやすいので、大雨のときは通らない。
- 60cm程度の水位でドアが開かなくなるので、車が止まったら直ちに脱出する。
- 緊急脱出用ハンマーを車内に備えておく。



排水先河川の氾濫を引き起こさないために！ポンプの運転調整を行います

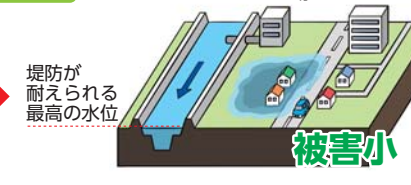
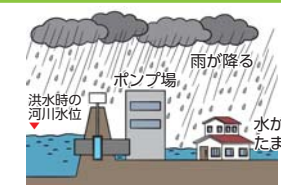
河川水位が上昇することで内水氾濫のおそれのある地域では、ポンプ場でくみ上げて河川に放流しています。大雨時に河川の水位が上昇し、堤防の決壊や越水による河川の氾濫を防止するため、排水ポンプのくみ上げる量を減らしたり運転を停止（運転調整）します。

洪水時にポンプの運転調整(停止)を行わなかった場合



河川の水位が上昇し堤防の決壊や越水による危険が高くなります。

洪水時にポンプの運転調整(停止)を行った場合



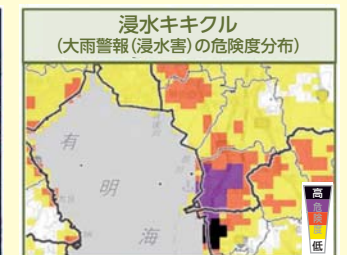
河川の水位上昇を抑制するため、ポンプを一時的に停止し、内排水を規制します。

防災・減災キーワード

「洪水キキクル」と「浸水キキクル」の危険度分布

洪水キキクルは、大雨による洪水災害発生の危険度の高まりを地図上で5段階に色分け（危険度は低いほうから水色→黄→赤→紫→黒の順に高い）で示す情報です。10分ごとに更新されるので、洪水警報等が発表されたときに、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。

また、浸水キキクルは、短時間強雨による浸水害発生の危険度の高まりを地図上で5段階で色分け（危険度は低いほうから白→黄→赤→紫→黒の順に高い）で示す情報です。10分ごとに更新されるので、どこで危険度が高まっているかが詳しくわかります。



気象庁 キキクル

検索

